



2026年6月18日

各位

スパークス・グループ株式会社  
代表取締役社長 グループCEO 阿部 修平  
(コード 8739 東証プライム市場)

**「スパークス・新・国際優良日本株ファンド（愛称：厳選投資）」**  
**純資産総額 3,000 億円到達のお知らせ**

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、当社子会社であるスパークス・アセット・マネジメント株式会社（代表取締役社長 阿部修平）が運用する国内公募投信「スパークス・新・国際優良日本株ファンド（愛称：厳選投資）（以下、当ファンドと表記）」が、2026年5月29日時点で純資産総額 3,000 億円に到達いたしましたので、お知らせいたします。

当ファンドは 2008 年 3 月の設定以来、一貫して長期・集中投資の運用戦略に基づき、日本企業の持続的な企業価値成長に着目した運用を行ってまいりました。今回の純資産総額 3,000 億円到達は、長期的な運用方針および運用実績に対する投資家の皆さまからのご支持の表れであると考えております。

また、2026 年 5 月末時点において、日本株に投資する国内株式アクティブファンドのうち、純資産総額が 3,000 億円を超えるファンドは希少であり、当ファンドは日本株アクティブ運用を代表するファンドの一つとして、多くの投資家の皆さまよりご支持をいただいております。

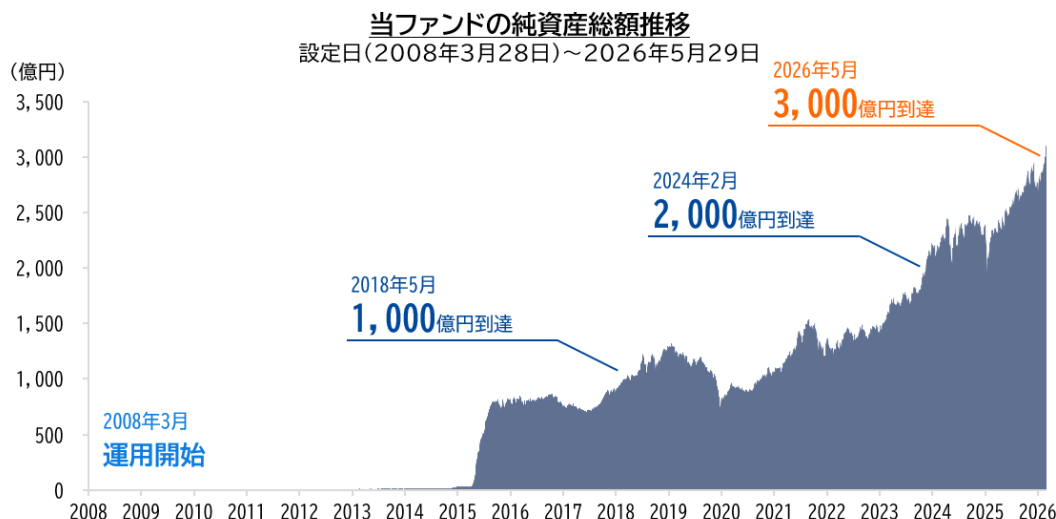
日本株アクティブ運用に対する中長期的な資産形成ニーズの高まりを背景に、今後も投資家の皆さまの期待に応える運用成果を目指してまいります。

**純資産推移・マイルストーン**

**純資産総額の推移**

- 2008 年 3 月 運用開始
- 2018 年 5 月 1,000 億円到達
- 2024 年 2 月 2,000 億円到達
- 2026 年 5 月 3,000 億円到達

※純資産総額は各時点の実績値





## 当ファンドの運用方針

当ファンドは、「魅力的なビジネスと卓越した経営陣を併せ持つ企業を安く買う」という投資戦略のもと、徹底した企業調査に基づく厳選投資を行っています。

短期的な市場動向に左右されることなく、中長期的な企業価値の成長に着目し、20銘柄程度の集中ポートフォリオを構築しています。

## 運用責任者コメント

### 運用調査本部 ファンドマネージャー

#### 武田 政和



このたび純資産総額 3,000 億円という節目を迎えることができました。

長期にわたり当ファンドをご支持いただいている受益者の皆さま、販売会社の皆さまに深く御礼申し上げます。

当ファンドは設定以来、企業の本源的価値に着目した長期投資を継続してまいりました。今後も投資家の皆さまの期待に応えるべく、調査・運用力のさらなる向上に努めてまいります。

## ファンド概要

項目	内容
ファンド名	スパークス・新・国際優良日本株ファンド
愛称	厳選投資
設定日	2008年3月28日
分類	追加型投信／国内／株式
純資産総額	3,140 億円（2026年5月29日時点）
委託会社	スパークス・アセット・マネジメント株式会社

### ■ 本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社 広報室  
[pr\\_media@sparxgroup.com](mailto:pr_media@sparxgroup.com)

■ 当資料はプレスリリースを目的として、スパークス・グループ株式会社及びスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。このため、当資料の第三者への提示・配布や当資料を用いた勧誘行為は禁止いたします。

■ 当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。



## ■投資信託の留意点

以下の記載は、金融商品取引法第 37 条により表示が義務付けられている事項です。お客様が実際にご購入される個々の投資信託に適用される費用やリスクとは内容が異なる場合がありますのでご注意ください。ファンドにかかる費用の項目や料率等は販売会社や個々の投資信託によって異なるため、費用の料率はスパークス・アセット・マネジメント株式会社が運用する投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高料率を表示しております。また、特定の投資信託の取得をご希望の場合には、当該投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずご覧いただき、投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断で行っていただくようお願いいたします。

## ■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等（外貨建て資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

特化型のファンドは、分散投資を行う一般的な投資信託とは異なり、銘柄を絞り込んだ運用を行うため、市場動向にかかわらず基準価額の変動は非常に大きくなる可能性があります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て（ショート・ポジション）取引を行いますので、売建てた株式等が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となり、株式市場の上昇局面でも損失を被るリスクがあります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方で損失が生じた場合、通常のファンドにおける損失よりも大きくなる可能性があります。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。

## 投資信託に係る費用について

当社における公募投資信託に係る費用（料率）の上限は以下のとおりです。

### ●直接ご負担いただく費用

購入時手数料	上限 3.3%（税込）
換金手数料	なし
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に対して 0.3%の率を乗じて得た額をご負担いただきます。

### ●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

運用管理費用 （信託報酬）	<p>日々の信託財産の純資産総額に対して年率 1.804%（税抜 1.64%）を乗じて得た額とします。 【信託報酬の配分：内訳（税抜）】 委託会社：年率 0.90%、販売会社：年率 0.70%、受託会社：年率 0.04% 運用管理費用（信託報酬）は、ファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の 6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。 運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の基準価額×信託報酬率</p>
監査費用 印刷費用	<p>監査費用、印刷費用などの諸費用は、ファンドの純資産総額に対して年率 0.11%（税抜 0.10%）を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期間の最初の 6ヶ月終了日および毎計算期末または信託終了の時に、信託財産から支払われます。</p>



	※ 監査費用：ファンドの監査人に対する報酬および費用 印刷費用：有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用
その他の費用・ 手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、その都度信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことができません。 ※ 組入有価証券の売買委託手数料：有価証券の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 信託事務の諸費用：投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息

<委託会社>

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 346 号

加入協会 一般社団法人資産運用業協会、日本証券業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会